

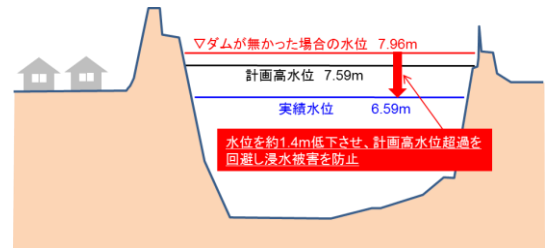
土師ダムの防災操作による治水効果(平成29年7月3日～5日梅雨前線)

☆計画高水位の超過を回避し江の川からの氾濫被害を防止

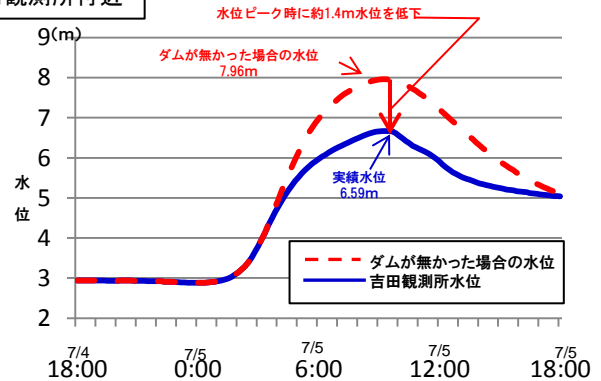
- 梅雨前線の影響による7月3日18時から5日12時までの降雨により土師ダム上流の流域平均**累加雨量232mm**を記録
- 土師ダムでは、ダムへの流入量が最大で毎秒約820m³に達し、このうち**毎秒約380m³の水をダムに貯めました。**
- この結果、安芸高田市吉田町付近の**水位を約1.4m低減させる効果があったと推定され、堤防設計、河道の整備等の基準となる計画高水位以下に抑えることが出来ました。**
- 仮にダムが防災操作をしていなければ計画高水位を上回る出水となり、安芸高田市への氾濫により**右岸側で氾濫したと仮定した場合は約29ha・76戸の浸水被害、左岸側で氾濫したと仮定した場合は約29ha・178戸の浸水被害が発生していたものと推定されます。**



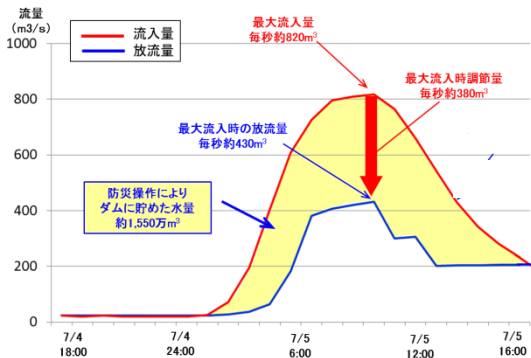
吉田町付近における土師ダムの防災操作の効果



吉田観測所付近

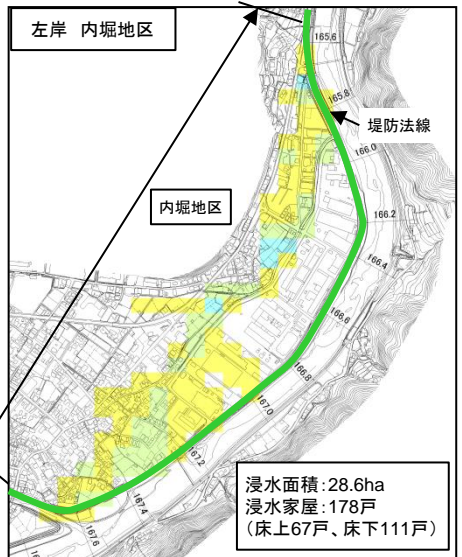
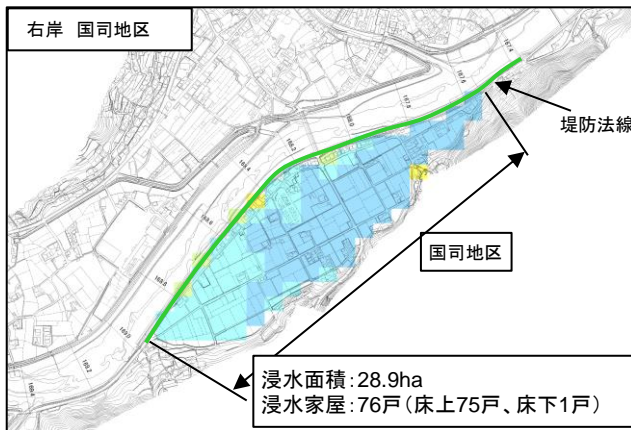


土師ダム



土師ダムが防災操作しなかった場合の被害シミュレーション

右岸 国司地区



※各数値は速報値であり、今後、変わる可能性があります。

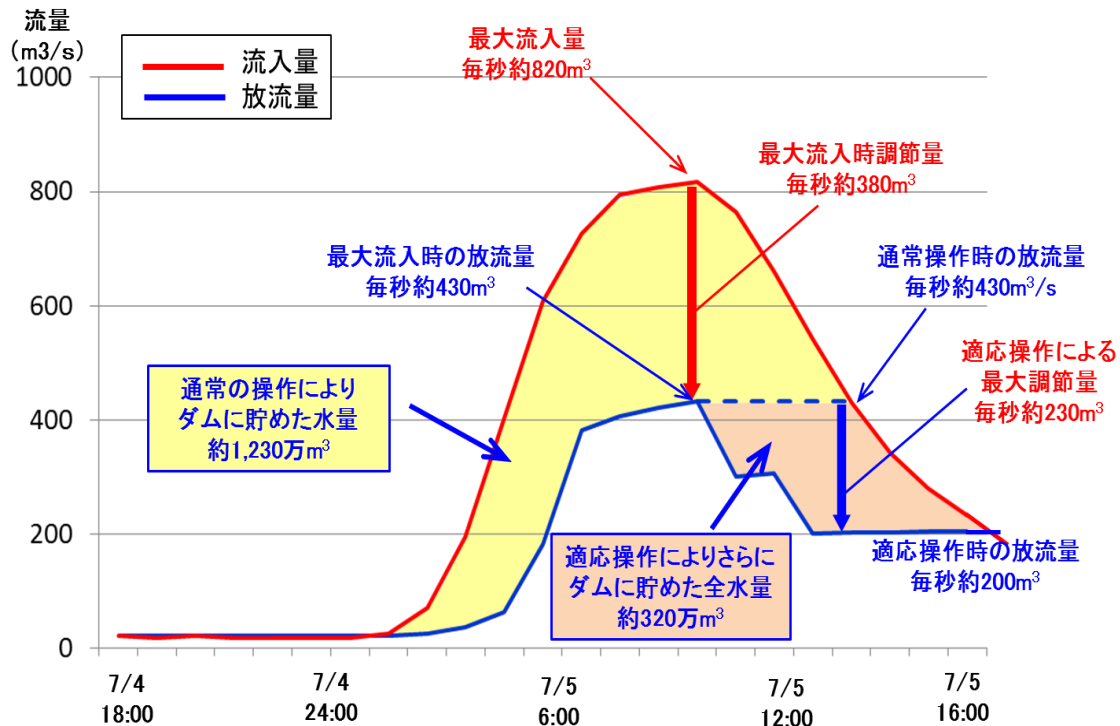
土師ダムの「適応操作」による治水効果(平成29年7月3日～5日梅雨前線)

梅雨前線の影響による7月3日からの土師ダム上流域の降雨(最大時間雨量29mm、流域平均累加雨量232mm)により、土師ダムでは防災操作を行いました。下流の吉田水位観測所において氾濫危険水位を超えたため7月5日9時45分から通常行う操作よりも多くの水をダムに貯める「適応操作」を実施しました。

この操作により、安芸高田市吉田町付近の水位を通常の防災操作に比べて約0.8m低減させる効果があったものと推定され、国司地区における排水ポンプ車による排水が必要となった時間について約3時間短縮することができ、河川に排水できずに氾濫していた時間の短縮に寄与出来たものと推定されます。

※「適応操作」とは、ダム下流の更なる被害軽減を行うため、ダム下流河川の状況に応じて、今後の予測降雨量、ダムの残りの貯水量等を勘案しながらダムの貯水容量を可能な限り有効活用し、放流量を規定(操作規則・細則)よりも減じる操作です。今後の雨が予測される場合や、多くの降水量が予想される場合は実施出来ません。

土師ダム



適応操作の効果

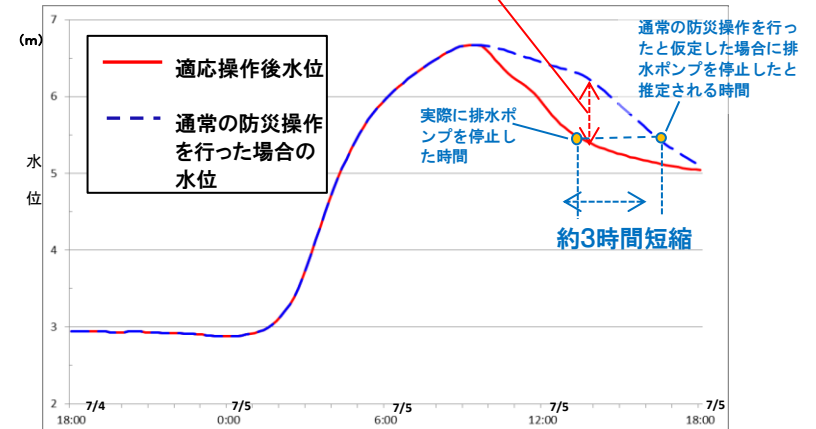
通常の防災操作の場合
における想定水位

適応操作後の水位

最大で約0.8mの水位低減効果

吉田観測所付近

最大で約0.8mの水位低減効果



※各数値は速報値であり、今後、変わる可能性があります。